

# 岩手農大 同窓会 会報

第33号

令和8年  
3月2日



【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会 岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原蟹子沢14 TEL 0197-43-2211



## 新しい農業大学校の施設に集う 若者に期待する

岩手県立農業大学校同窓会

会長 笹田 昭市

早春の候、同窓会員の皆様には、ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今年の冬は、当初気象庁の予想では暖冬になるのではとのことでした。しかし、県内では1月から寒い日が続き、内陸部では中旬から降雪も多くなりました。また全国的にみると、日本海側の地域では降雪量が多く、太平洋側の西南地域では降水量が少なく水不足が深刻な地域もでています。特に、北海道や青森県では豪雪による被害が深刻です。3月は暖かくなると予報が出されていますが、これ以上気象災害が起こらないようにと祈るばかりです。

さて、今年1月9日付の「岩手日報」紙に、農業大学校の施設整備の記事が掲載されていました。会員の皆様が学生時代に使われた学校の施設が新たな施設となります。また現在北上市の農業研究センター内にある「農業博物館」が、農業大学校内に集約されることになりました。この計画によると、2027年度に旧施設が解体され、2029年度に新施設を建設して、2030年度から新施設が利用されることになっています。

同窓会では、今年の農大祭時に、解体される旧施設を見学する機会を設ける予定です。

会員の皆様には、青春時代を過ごした思い出の地を訪ねてみられませんか？

ところで、今回解体される旧学生寮など農大の施設が映画のロケ地に使われたことをご存じですか？ 2005年に公開された「ゲルマニウムの夜」という作品です。この映画では、学生寮のほかに教会として実験棟が、墓地として農区の畑とか、旧肉牛舎等が使われていました。主演の新井浩文さん、共演の広田レオナさん・早良めぐみさんの他、佐藤慶さん、石橋蓮司さん、暦赤児さん、大森南朗さん等そうそうたる方々が出演していました。

新しい施設でこれからの農業を担う若者達が思い切り活躍されることを期待しています。



旧敬明寮



## 同窓会報に寄せて

岩手県立農業大学校

校 長 竹澤 利和

岩手農大同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の推進に多大なる御支援と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

近年の冬は六原らしからぬ小雪が続いておりましたが、今冬は昭和の時代に比べればまだまだ少ないものの、一面の銀世界となりました。しかし、夏の猛暑は年々厳しさを増しておりますので、昨年6月には学生寮の各室に待望のエアコンを設置し、学生は快適な寮生活を送れるようになりました。

一方、本校の施設は、昭和40年から50年代に整備されたものが多く老朽化が進行しており、教育環境の改善が喫緊の課題となっております。また、担い手の減少や少子化の進展に加え、本県農業を取り巻く環境が大きく変化する中、本県農業の次代を担う農業者を着実に育成していくためには、カリキュラムや研修内容の充実、施設の整備等により、農業大学校の機能を強化していくことが必要です。

このため、同窓会員をはじめ幅広く有識者からの意見を賜りながら、令和7年10月に「農業大学校の機能

強化に向けた基本構想」を、今年度内には「岩手県立農業大学校整備基本計画」を策定し、現行の管理棟（本館）及び教育棟を建て替える計画としているほか、カリキュラムの充実など本校の魅力や機能、環境の一層の充実・強化を図っていきます。

新校舎は旧男子寮を解体した跡地に建築予定で、令和9年度に旧男子寮を解体し、令和10年度から新校舎建築工事を行い、令和12年度の新校舎供用開始以降、現行の管理棟及び教育棟の解体を行うこととしております。

さて、もう間もなく、2年生が夢と希望を抱いて卒業を迎えようとしていますが、本県農業の持続的な発展を支える人材として輝かしい未来を育んでいけるよう、引き続き同窓会の皆様の御指導・御支援をよろしくお願いいたします。

結びに、同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げまして御挨拶といたします。

### 予 告

## 旧男子寮(秀峰寮、敬明寮、敬明東寮)を 「懐かしむ会(仮称)」を開催します！

校長寄稿にありますとおり、新校舎建築に向けて令和9年度に旧男子寮が解体されます。

平成12年度に現在の敬明寮が整備される前に在学していたOBにとって、とても懐かしく思い出の詰まった施設であると思いますので、姿を消す前に「懐かしむ会」を開催することといたしました。

令和8年度の「農大祭」に合わせて開催する予定です。農大祭は例年10月下旬に開催されていますが、今後、日程や内容を詰めたうえで夏のお盆前頃には農業大学校ホームページにて詳細を御案内します。是非忘れずにチェックしてください！

多くの御参加をお待ちしております！

—新たな旅立ちにあたり—

## 今春卒業し、同窓生の仲間入りをする学生からの寄稿



## 農大での2年間と将来の夢

農産経営科2年 遠藤 あゆみ

私は、幼いころ祖父が農業を行っている姿を見て農業に興味と魅力を感じ、将来農家になりたいと強く思い、農業大学校へ入学しました。

この2年間は農業の技術や知識の習得に努め、また、農業大学校の仲間たちと共に過ごすことができ、とても楽しくかけがえのない時間となりました。

卒業後は、岩手ふるさと農業協同組合に就職します。農大で得た知識や技術を生かし、就職先や地域の農業の未来に役立てるよう、頑張りたいと思います。



## 2年間の農大生活を通じて

農産経営科2年 菊池 将矢

私は将来、実家の農業を継ぎたいと思い、農業大学校に入学しました。農大での2年間はあっという間で、楽しいことも辛いこともありましたが、仲間や指導して下さった先生方のおかげで充実した学生生活を送ることができました。最後の農大祭は、とても楽しかったです。

卒業後は、地元奥州市にある有限会社ミズノウ商事に就職します。農大で培った農薬・肥料についての知識や技術を活かして、農家の皆様のお役に立てるよう努力していきます。



## 2年間で学んだこと

野菜経営科2年 武田 蓮

私の実家は非農家ですが、農業高校に通い野菜と触れ合う中で、将来農業に関わる仕事に就きたいと考え農大に入学しました。2年間という短い期間でしたが座学や実習を通して野菜について深く、楽しく学ぶことができました。また、農業について学ぶことで野菜を栽培することの喜びや魅力を改めて実感することができました。

卒業後は、JAいわて中央に就職します。農大で学んだ知識や技術を活かして組合や地域の農業に貢献できるよう努力し続けたいと思います。



## イチゴ農家として

野菜経営科2年 千葉 賢一

私は実家が農家で、農業を身近に感じており、自分も将来農業に取り組みたいと思い、農業大学校に入学しました。

この2年間で、実習や事例研究などを通して、技術や知識だけでなく、改めて農業の魅力や奥深さを感じることができました。そして卒業研究では、実家の栽培に関する課題等について研究したため、その結果を活かしていきたいと思います。

卒業後は、一関市の実家でイチゴ農家として就農します。農大で得た知識や経験を活かして頑張ります。



## 農大での長いようで短い道のり

果樹経営科2年 小原 大和

私は、高校の時、果樹と出会い栽培にやりがいを感じ、将来は家でぶどうを育てたいと考えました。そこで果樹の栽培技術や知識を深めたいと思い農大に進学しました。入学当初は戸惑う場面がありましたが仲間と助け合い、授業や実習で知識や技術を身につけてきました。

卒業後は岩手県農業公社に就職します。これまで農大で得た知識や技術を最大限に生かして励みたいと思います。



## 2年間を通じて

果樹経営科2年 田中 前

私は、高校生の時にりんご栽培のアルバイトをして農業の楽しさを知り、岩手農大へ入学しました。当初は少しの実践経験しかなく、また、新しい学友と馴染んで学んで行けるか不安でしたが、互いに切磋琢磨し多くの経験を積むことが出来ました。

卒業後は地元秋田の農業法人に就職します。農大で得た知識や経験を活かして果樹栽培の発展に貢献できるよう励んでいきたいと思っています。



### 農大生活を通して

花き経営科 2年 大村 はる

岩手県立農業大学校では、栽培管理を中心に学び、花の生育や品質を安定させるための技術を身につけました。卒業研究ではシクラメンを題材とし、日々の管理や調査に丁寧に取り組みました。その結果、温度や水分管理が生育に直結することを実感し、計画的な栽培管理の重要性を学ぶことができました。

卒業後は、仙台の花き市場に就職が決まっており、農業大学校で得た知識と経験を活かして花の流通に携わりたいと考えています。



### フラワーデザイン

花き経営科 2年 塩原 結羽

私は、フラワーデザイナーになりたいと思い、岩手県立農業大学校に入学しました。入学後は、実習を通して栽培の基本となる作業を学び、フラワーデザインの授業では花束やアレンジメントを学ぶことができました。2年生になってからは、技能五輪全国大会にも出場することができ、成長につながる良い経験となりました。

卒業後は、地元秋田の生花店に就職します。農大で学んだことを活かし、自分の明るさも大切にしながら頑張ります。



### 一歩ずつ

酪農経営科 2年 阿部 誠也

将来、酪農経営と乳加工の夢を実現させるため岩手農大で知識、技術を学んできました。入学後は、朝夕の搾乳当番をはじめ、実践的な実習で実技を経験し、基礎的、専門的知識を座学で学びました。正直、講義と当番の両立は大変でしたが、乳量が増えたり、牛が懐いてくれたりすると嬉しいこともあり、2年間続けられました。

卒業後は、合同会社遠野酪農舎に就職します。就職後も学ぶ意欲を持ち、ひたむきに一歩ずつ歩んでいきたいと思っています。



### 2年間を通して

酪農経営科 2年 近江 陽太

私は、幼い頃から生き物が大好きで、将来、生き物に関わる仕事に就きたいと考えていました。中学を卒業後、農業高校で所属した畜産部で肉牛の育成を学び、牛に興味を持ったので、岩手農大に進学しました。初めての作業や専門用語に苦戦しましたが、先生方や友人のお陰で様々な知識や社会性を学びました。

卒業後は、地元秋田の肉牛繁殖農場に就職し、岩手農大で学んだことを活かし、肉牛について新たに学びながら働いていきます。



### 成長し続けた2年間

肉畜経営科 2年 井上 爽和

私の実家は非農家ではありますが、農業高校での学びをさらに深めたいと考え岩手県立農業大学校に入学しました。農大での2年間は、日々の授業や当番、農家派遣実習や事例研究を通して農業で必要とされる知識や技術、物の考え方を得ることが出来ました。

卒業後は、釜石市の釜石飼料株式会社に就職します。畜産を支える存在として、新しい環境で新たな知識と技術を吸収し、さらに成長できるよう精進していきたいです。



### 2年間を通して

肉畜経営科 2年 高橋 瑛

私の実家は非農家ですが、農業高校に入学し牛に関わることで、さらに牛について学びたいと考え農大に入学しました。この2年間はあっという間でしたが、実習や当番を通しての実践的な技術と、座学により知識を学ぶことができました。学校生活も良き仲間にも恵まれ、充実した日々を過ごすことができました。

卒業後は、一関市の北日本 JA 畜産株式会社藤沢牧場に就職します。農大で学んだ知識・技術を活かしながら、日々更に成長していきたいです。

## ◆ 特集 農業大学校整備基本計画の概要 ◆

一部の新聞にも本校の整備基本計画が掲載されましたが、同窓生の皆様におかれましても母校が今後どの様に整備されていくのかは大きな関心事と思われるので、以下にその計画概要を紹介します。

### 1 事業目的：

老朽化が著しい農業大学校の管理棟・教育棟と、農業科学博物館（北上市）を効率性・経済性の観点から一体的に整備し、農業大学校の教育・研修機能の向上に加え、岩手の農業に関する資料の展示や学習の場の提供など、農業大学校の魅力向上を図ります。

### 2 事業内容：

ア 建設予定地：農業大学校の現在地

イ 施設規模

区 分	主な部屋等	延床面積 (㎡)
管理棟	職員室、校長室等	353.9
	保健室、更衣室、倉庫、機械室等	302.9
教育棟	講義室、大講義室	624.0
共用（学生・農業者等）	調理実習室、展示室	195.8
その他	廊下、トイレ等	448.2
合 計		1,924.8

※構造、階数は今後精査される予定

ウ 事業期間及び整備工程

年 度	令和8	9	10	11	12	13	16	17
解体設計・解体(旧寮)								
基本設計・実施設計(新施設)								
新施設建築工事								
新施設供用								
解体設計・解体(管理棟・教育棟)								
解体設計・解体(農業博物館)								

エ 施設整備の流れ

- ① 新校舎整備予定地の旧寮等を解体（6ページの施設配置イメージの青破線）、
- ② 農大管理棟・教育棟、農業科学博物館を集約し新設（緑実線）、
- ③ 現管理棟・教育棟、農業博物館は新施設への移転後に解体（赤二重破線）

廃寮となったまま現存している旧敬明寮と旧秀峰寮は令和9年度までに取り壊され、そこに新管理棟・教育棟が配置される予定です。令和12年度の供用を目指して、今後順次整備が進められていきます。

また、この間、施設整備のみならず、教育カリキュラムなどソフト面も時代に即して見直し、充実を図っていくこととしています。



## Wild Cup 2025に参加 肉畜経営科 1年生が学生部門最優秀賞受賞！

第10回記念大会岩手県農林水産部政策提案型調査研究コンテスト「WildCup2025」が8月6～7日にかけて、盛岡市で開催されました。このコンテストは、従来にない野心的な政策立案に向けた調査・研究を通じ、農林水産業の活性化及び職員のスキルアップを狙うものです。本校からは、畜産学科酪農経営科、肉畜経営科の1年生から提案を行いました。酪農経営科は、「ミルク推しプロジェクト」と題し、若い世代への牛乳の普及拡大を目指し、学内での牛乳の自動販売機の設置や、食堂での牛乳の提供を提案していくものでした。肉畜経営科は、「リンゴで解決！農大で作るブランド牛」と題し、学校で発生する廃棄リンゴを牛のエサにし、ブランド牛を作ることで、持続可能な牛肉生産や高付加価値化による収益改善を提案するものでした。緊張した面持ちの学生もおりましたが、皆、立派に発表ができました。学生発表の部では、農業大学校の2題を含め、4題の提案があり、肉畜経営科の提案が、学生グループ部門賞をいただきました。今後、卒研発表など、プレゼンテーションを行う場面もあるので、今回聴講した他の団体の発表等も参考にしながら、伝わりやすい発表スキルを養ってほしいと思います。



肉畜経営科の発表



酪農経営科の発表

## 国際農業事例研究を実施

本科2年生全員が8月27日から29日までの2泊3日、国際的な視野を広めるため、事例研究を行いました。初日はJICA筑波センターで開発途上国の課題解決の支援活動を研修しました。2日目は、午前中を成田国際空港で、海外から持ち込まれる農畜産物による病虫害侵入防止に係る水際対策について、現場での取組を研修しました。午後はアメリカ大使館内でアメリカ農業の特徴や現状と課題、農業の担い手の状況など多岐に渡り研修しました。最終日3日目は、JAXA筑波宇宙センターで宇宙開発の視点からの農業開発や現在までの取組などについて研修しました。

どの研修会場でも学生からの質問が多数あり、研修先から高評価を受けるなど有意義な研修となりました。



JICA 筑波センターでの研修

# 「2025 農大祭」

## 今年も2日間の一般公開、大盛況で終了

「2025 農大祭」は、「青空ハーベスト!!!」をテーマに、10月25日～26日の2日間開催しました。今年も昨年に続き一般公開を2日間連続で行い、各経営科の模擬店では、学生が生産した農畜産物や加工品の販売を行いました。中には、駐車場と模擬店を何度も往復しながら買い物を楽しむ来場者の姿も見られ、学生の活動に対する温かな関心が感じられました。

体育館では、2年生の卒業研究や1年生のプロジェクト研究の成果発表のほか、各経営科の学習内容紹介パネルを展示し、日頃の取組を広く紹介しました。一方、屋外の模擬店エリアでは、卒業研究の一環として、学生が生産した農畜産物について来場者に官能評価への協力をお願いし、いただいたご意見を研究データとして活用しました。実際の声を直接伺う貴重な機会となり、学生にとっても大きな学びのイベントとなりました。



【農産経営科】



【野菜経営科】



【果樹経営科】



【花き経営科】



【酪農経営科】



【肉畜経営科】

## 令和8年3月卒業予定者の進路状況

令和8年1月31日現在

区分	人数	進路先
自家就農	1名	県内：一関市
雇用就農	11名	ベルグアース(株)、よこみちファーム(株)、(有)サン農園、(株)宇津宮果樹園、(有)沢田青果、農事組合法人となん、合同会社遠野酪農舎、タカハシ畜産(株)、(株)日高見牧場、北日本 JA 畜産(株)藤沢牧場、(有)エム牧場
農業団体	9名	JA 共済連岩手、NOSAI 岩手、JA 新いわて、JA いわて中央、JA 岩手ふるさと、JA いわて平泉、JA 秋田おばこ、JA 秋田ふるさと、JA 新みやぎ
農業関連企業	7名	(有)岩手スカイテック、(株)釜石飼料、(株)純情米いわて、仙台生花(株)、(有)ミズノウ商事、(株)みちのくクボタ (2名)
一般企業	3名	(株)コメリ、(株)花のヤマト、(株)ビューティー花壇東日本
公務員等	3名	(公社)岩手県農業公社 (2名)、(独法)家畜改良センター
進学	2名	岩手大学農学部、東京農業大学国際食料情報学部